

* 当リリースは米国アトランタで5月25日に配信されたリリースの意訳です。

2011年5月31日

デルタ航空、夏季旅行シーズンを前に、機内設備・サービス向上計画の進捗を発表

総額 20 億ドル以上を投じたプロジェクトの一部を今夏より体験いただけます

【アトランタ、2011年5月25日】 – デルタ航空(NYSE: DAL)では、2013年までに20億ドル以上を投資し、機内設備やサービスを向上するプロジェクトを推進していますが、今年の夏季旅行シーズンにはその一部がご利用いただけるようになります。夏季シーズン中にデルタ航空をご利用になるお客様数は、4,500万人以上にのぼると見込まれます。

昨年夏以降に導入された新たな機内設備やサービス、空港設備は以下のとおりです。

- ボーイング 777 型機全機、767-400 型機全機を含む、すべての長距離国際線用機材の 25% 以上のビジネスクラスにフル・フラットベッドシートを導入しました。2013 年までには全対象機材への導入を完了する予定です。
- 160 機以上のボーイング 747 型機、757 型機、767 型機、777 型機、エアバス 330 型機に、6 月 1 日よりプレミアムエコノミー座席「エコノミーコンフォート」を導入します(2 月発表)。エコノミークラス最前部座席数列に設置され、これまでのデルタ航空の標準的な国際線エコノミークラスの座席よりも、足もとが最大 4 インチ(約 10.2 センチ)広くなり、リクライニング角度は 1.5 倍になります。また、優先搭乗サービスも行います。
- インディアナポリスとフィラデルフィアに空港ラウンジ「デルタ スカイクラブ」を新設したほか、ニューヨークのラガーディア空港、ロサンゼルス、ミネアポリス、アトランタ(コンコース B)の 4 箇所のスカイクラブをリニューアルしました。この夏後半にはアトランタ(コンコース A と B)およびシアトルのスカイクラブもリニューアルオープンする予定です。
- 米国内ローカル線の短距離用小型機材のうち、228 機に国内線のプレミアムクラス、ファーストクラスの座席を約 2,000 席追加します。これにより、米国内線ファーストクラスの座席数は米国航空会社の中で最多となります。
- 遅延等の理由により通常通り目的地に到着しなかった預け入れ手荷物の位置や配送状況をお客様がオンラインで追跡できるシステムを導入しました。
- 米国内のすべての幹線ルート、1 日合計 2,200 便にて、WiFi 無線インターネットが使えるようになりました。2011 年末までには、米国内ローカル線用の全 228 機の 2 クラス(ファーストクラス、エコノミークラス)制機材にも WiFi を導入する予定です。
- 米国内の 12 以上の空港でデルタ航空が提供するお客様用の充電コーナー「Delta recharging stations」に 8,100 以上のコンセントを追加します。充電コーナーでは 110 ボルトのコンセントおよび USB での充電が可能です。
- iPhone®、Android®(アンドロイド)、BlackBerry®(ブラックベリー)向けの携帯アプリ(英語版)を提供し、お客様にスマートフォン上でチェックイン、運航状況の確認、マイルージプログラム「スカイマイル」の口座残高確認、e 搭乗券の利用、運航スケジュールの閲覧、空港情報の検索、天気の確認、フライトの再予約、空港駐車場の位置情報記録などのサービスをご利用いただけるようになりました。
- お客様サポート用ツイッターアカウント「@DeltaAssist」での 24 時間体制のカスタマーサポート(英語)を提供。

- ウェブサイト delta.com も機能改善を重ね、より直感的にご利用いただけるようになりました。同ウェブサイトは、米 Compuware Gomez により「ウェブパフォーマンスと信頼性における最良のウェブサイト(Best of the Web for performance and reliability)」に選ばれました。

デルタ航空のネットワーク・プランニングおよびレベニューマネジメント担当執行副社長、グレン・W・ホーエンスタインは次のように述べています。「デルタ航空では、お客様がフライトを予約する時から目的地へ到着するまで、あらゆる時点においてサービスの向上を目指しています。この1年間で多くの進展がありましたが、もっと快適で便利にご利用いただけるよう引き続き改善を図って参ります。」

デルタ航空では、2013年にかけて総額20億ドル以上を投じて機材および機内設備、空港設備への投資計画を進めています。この計画には、2013年にオープン予定のニューヨーク JFK 空港に新設する第4ターミナル、2012年にオープン予定のアトランタ空港の国際線ターミナル施設(Maynard H. Jackson Jr. International Terminal)の新設、政府認可申請中のニューヨーク ラ・ガーディア空港とワシントン空港でのU.S.エアウェイズとの発着枠交換が含まれるほか、今後2年間にわたり1億1,700万ドルを投じて行うラ・ガーディア空港のターミナルCおよびDの拡張・リニューアル計画などが含まれます。

デルタ航空は、米国航空会社の中で最多の日本発着便を運航しています。成田空港をアジア地域のハブ空港と位置付け、成田から米国本土9都市、ハワイ、グアム、サイパン、パラオのリゾート4都市、アジア9都市に向けて直行便を運航しています。また、関西国際空港、中部国際空港セントレアからも毎日直行便を運航しています。また、6月4日からは羽田-ロサンゼルス便、6月17日からは羽田-DETROIT便のデイリー運航を再開します。なお、羽田便再開にあたり、両路線とも最新の座席とエンターテインメントシステムを備えた機材、B777-200を使用します。ビジネスクラス「BusinessElite®(ビジネスエリート)」には完全に水平なフラットベッドシートが設置され、エコノミークラスおよびエコノミーコンフォート(足元とリクライニング角度にゆとりのあるプレミアム・エコノミー座席)にはオンデマンド型の個人用エンターテインメントシステムが導入されています。

デルタ航空は年間1億6,000万人以上の搭乗者数と広範なネットワークを持つ航空会社です。フォーチュン誌の「2011年世界で最も賞賛される企業の航空業界部門(2011 World's Most Admired Companies Airline Industry List)」において、1位を獲得しました。デルタ航空およびデルタ・コネクションの運航便とあわせて、世界64カ国、346都市に向けてフライトを運航しています。世界で8万人以上の従業員を擁し、700機以上の主要機材を運航しています。デルタ航空は、航空連合(アライアンス)「スカイチーム」の創立メンバーとして、大西洋路線においてエールフランス-KLM、アリタリア-イタリア航空とともに、共同事業を展開しています。アトランタ、シンシナティ、デトロイト、メンフィス、ミネアポリス/セントポール、ニューヨーク(JFK)、ソルトレイクシティ、パリ(シャルルドゴール)、アムステルダム、東京(成田)をハブ空港とし、提携航空会社と合わせて一日に1万3,000便以上のフライトを運航しています。デルタ航空のサービスには、世界最大のマイレージプログラム「スカイマイル」、各賞を受賞しているビジネスクラス「ビジネスエリート」、世界中の空港に50箇所以上設置しているラウンジ「デルタ スカイクラブ」等があります。デルタ航空は2013年にかけて総額20億ドルを投じて空港施設やプロダクト、空港および機内での顧客サービス向上とテクノロジー導入を進めています。詳しくはホームページ delta.com をご覧ください。

<お客様問い合わせ先>

デルタ航空予約センター: フリーダイヤル 0120-120-747、ナビダイヤル 0570-077733 (6月1日より)

<報道関係者お問い合わせ先>

デルタ航空太平洋地区広報部

e-mail: corpcommjapan@delta.com